

日頃、組合員・利用者の皆様には格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

さてこの度、2013年度の事業内容や経営内容などをご説明した「ディスクロージャー誌」を発刊いたしました。ぜひご一読いただきたくお願いいたします。

2013年度の日本経済は、デフレ脱却と日本経済再生に向けた積極的な政策効果により、企業の大幅な収支改善や個人消費の拡大が報告され、緩やかな景気回復基調で推移しました。企業業績の改善により雇用拡大や賃金見直しの動きも広がりつつあり、さらなる景気改善が期待される一方で、消費税増税後は家計負担の増大により消費の抑制が想定され、景況感の悪化による経済の停滞が懸念されています。

農政を取り巻く環境も、TPP（環太平洋連携協定）交渉合意に向けた圧力が米国主導で強まる中、2月の参加国閣僚会合での実質的合意は見送られたものの、農業分野での関税撤廃を要求する姿勢は変わらず、引き続きJAグループ一丸となり、国益の最大限の確保、国民の食とくらし・いのちを守る運動を展開してまいります。

農業面では、円安と海外の需要拡大等により、燃料・生産資材価格は高止まりを続けており、消費税増税が更なる負担増となる中、生産コストの増大を販売価格に転嫁することも難しく、農業経営に深刻な影響を与えています。

このような情勢のなか、さらなる農業振興と協同組合運動の躍進に向けて、第三次中期経営計画（2012年度～2014年度）中間年度及び「第二次地域農業振興計画」初年度の実践に取り組みました。

組織運営では、基礎組織である生産組合の活性化と結束力強化をはかるため、助成策を活用した活動実施を推進しました。また、「新組合員のつどい」を新たな地域交流活動と位置づけて参加を呼びかけ、支所毎に特色ある取り組みをはじめました。

営農指導事業では、収穫体験や農園オーナー制度など観光農業のさらなる充実拡大と、都市近郊の立地を生かした多彩な園芸産地づくりに取り組みました。販売事業では地産地消の拠点である「はだのじばさんず」での地場産農産物の取扱拡大と、消費者ニーズに応えた品揃えにつとめ、6月に来店者延べ500万人を達成するとともに、取扱高は10億3千万円となりました。2月の記録的な大雪では市内全域で農業被害が発生し、ハウス等農業施設の損壊に対する対応を行いました。

また、農産加工品の開発や料理教室の開催など、女性部活動と食農教育の拠点として、新たに本所農業団地センターに調理室を整備しました。

信用事業では地域に根ざしたJAバンクとして信頼をいただき、貯金残高は2,000億円の大台を達成しました。

経営管理では、創立50周年を迎え、組合員の皆様への感謝を込めて出資配当の増配、記念利用券と記念誌の配付を実施したほか、周年記念事業として「はだのじばさんず」に太陽光発電パネルを設置しました。また、施設整備として鶴巻支店新店舗の建設に着手しました。

JAはだのでは、地域農業の振興に軸足を置き、協同組合運動の躍進に向けた活動に取り組んでまいります。

皆様の一層の参加、参画および利用結集をお願い申し上げます。

秦野市農業協同組合
代表理事組合長古谷茂男